

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673000683
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会
事業所名	グループホームみかわ
訪問調査日	平成 20 年 8 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 3 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	673000683		
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会		
事業所名	グループホームみかわ		
所在地 (電話番号)	山形県東田川郡三川町青山字箴元22-1 (電話) 0235-68-1088		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年8月27日	評価確定日	平成20年10月3日

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 9 月 19 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14人	常勤 14人, 非常勤	人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造在来工法二階建て 階建ての 階 ~ 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円
敷金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2			名
年齢	平均 84.6 歳	最低	65 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田内科医院・三川病院・谷家歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「お互いに支えあう安らぐ生活」「自分のペースで生き生き暮らす」「地域の行事に参加し楽しみましょう」という理念に基づき、ホーム側から各方面への働きかけが積極的に行われており、地域の一員としての役割も担いながら、地域に密着した活動を実践しています。
また、「普通食を食べていただく」ことを目指すために、噛むことの意味、口腔ケアの大切さ、歩くことがもたらす効果、食材選びの工夫など、さまざまな角度からの検討や取り組みが行われていることから、利用者の生き生きとした生活を支えたいという職員の願いが伺えます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題はありません。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価及び外部評価項目の内容を「望ましい事業所のあり方」として捉えており、足りない部分を常に意識したり、話題にしなが、各棟全職員で話し合っ て評価をまとめ、具体的な改善に向けて取り組んでいる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、活動報告、外部評価の結果報告、入居状況の報告、役 場からの連絡や情報の提供、また、ボランティアのお願いや家族会設置に向 けた話し合いが行われており、サービス向上にも活かされている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設置しており、苦情の窓口設置の情報提供や運営推進会議の議題 とすることにも取り組んでいる。過去に「介護者の言葉で利用者が傷ついた」と いう苦情が寄せられた際に、家族等と良く話し合い誤解を解くことができた事 例などを、その後のホームの運営にも活かす取り組みが行われている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム側から積極的に働きかけ、小学校の学芸会、運動会、地区のお祭り、ビ アガーデン、町の音楽会、冬祭りなどに幅広く参加しており、利用者は楽しみ ながら地域の人との交流を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	3項目からなる理念があるが、その中にはホーム内での暮らしだけではなく、「地域の行事に参加し共に楽しみましょう」という内容が盛り込まれている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員がいつも意識するように、玄関、ホール、事務室に理念を掲げ、毎朝のミーティングで行事内容や利用者への接し方、行いが理念に合っているかを話し合っており、理念を共有しながら実践に向けた取り組みを進めている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム側から積極的に働きかけ、小学校の学芸会、運動会、地区のお祭り、ビアガーデン、町の音楽会、冬祭りなどに幅広く参加しており、利用者は楽しみながら地域の人々との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価項目の内容を「望ましい事業所のあり方」として捉えており、足りない部分を常に意識したり、話題にしなが、各棟全職員で話し合っており、評価をまとめ、具体的な改善に向けて取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告、外部評価の結果報告、入居状況の報告、役場からの連絡や情報の提供、また、ボランティアのお願いや家族会設置に向けた話し合いが行われており、サービス向上にも活かされている。		

山形県 グループホームみかわ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターと町の福祉課が一緒の場所にあるため、ホームからも出向く事が多く、入居について相談したり、町の情報の交換を行ってサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、家族面会時には口頭で伝え、遠方の家族には電話やFAXで伝えられている。また、金銭出納のコピー、職員の異動や行事の報告、利用者の近況等を書いたお便りも送られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、苦情の窓口設置の情報提供や運営推進会議の議題とすることにも取り組んでいる。過去に「介護者の言葉で利用者が傷ついた」という苦情が寄せられた際に、家族等と良く話し合い誤解を解くことができた事例などを、その後のホームの運営にも活かす取り組みが行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員異動があることも意識しながら、職員がユニット間を行き来する場面を日常的につくったり、両ユニットの利用者に朝晩の挨拶を両ユニットの職員が行なったりしている。また、担当者が異動した場合の引継ぎは、馴染みの職員も間に入るようにしてダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内をコピーして職員に配り、本人が希望する研修に参加できるようにしており、新任研修やリハビリテーションの研修等に参加できている。また、管理者と計画作成者の法人内研修や職員の資格取得のための勉強会も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム連絡協議会に入会しており、交換実習を受け入れ、他のグループホームへの見学などにより、情報の交換と交流を図るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事の手順や野菜の種類を教えてもらったり、「なます」「笹まき」の作り方を教えてもらったりしている。また、「ホームを一つの家族」と考え、困りごとを話し合ったり、問題が改善したら一緒に喜んだりしながら、共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からの本人の観察が一番大切であると考えており、家族や本人の意向の聞き取りに加え、観察の中から得た気付きも大切にしている。また、ちょっとした仕草やアイコンタクトで利用者の思いを汲み取ったり、職員同士の情報交換により、心地よいと感じているかを把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞きながら、本人が心地よいと感じる介護計画となるよう、毎月のユニット会議で話し合いを行って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとに見直しを行うが、病気の場合や状態変化があった場合には2か月毎に本人や家族の意見を取り入れて見直しを行い、より現状に即した介護計画となるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	事業所の協力医、利用以前からのかかりつけ医受診な ど、希望に沿って家族と連携を取りながら受診を支 援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、 ホームで出来る事、出来ない事の説明を本人や家族に 行っており、かかりつけ医師とも相談して方針を共有し ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	ちょっとしたしぐさ、視線で利用者の気持ちを感じ取っ ており、確認を行う場合も耳元で小声で話しかけるよ うにしている。また、記録等の個人情報は事務所のキャ ビネットに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、食事後の時間の過ごし方、お風呂の時間 など、一人ひとりの希望やペースを大切にしており、そ の時々で気持ちが変わっても、その時の希望に沿った 支援を行うようにしている。		

山形県 グループホームみかわ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使った献立にしており、職員と一緒に準備や配膳も行っている。また、目のほとんど見えない方であっても、みんなと一緒になごやかに片付けや皿拭きなどを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や体調に合わせて、ゆっくりお風呂に入れるよう支援しており、車椅子の方でも安心して入れるよう改装中である。また、季節を感じられるよう柚子湯や菖蒲湯なども取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者宅の畑仕事の継続、散歩、部屋の掃除、食事の準備と後片付け、パッチワークや編み物、おやつ作り、カラオケ、ゲームなど、その人の力を活かした役割や楽しみの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑での野菜の収穫、散歩、買い物、夕焼けドライブに出かけており、利用者一人ひとりのその日の希望に沿って出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	外出したい様子が見られた場合は無理に引き止めたり、鍵をかけることはせずに、職員が付き添って散歩やドライブに出かけるようにしている。また、利用者数人で出かける時は、途中で帰ってきたくなる利用者のことも考え、複数の職員が付き添って出かけるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を実施しており、今年は地域の方と一緒に夜間想定訓練も行われた。また、水害時の避難場所としての指定、災害時の高齢者の避難場所の依頼を受けている。		

山形県 グループホームみかわ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べるペースに合わせた声かけがされており、嫌いな食材は代用品を使用したり、大きい物は細かくしたりして、全量摂取を目標とした支援をしている。また、食事量や水分量はチェック表に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くて明るいホールには全員が座れるソファが準備されており、利用者作品のパッチワークや書が飾られている。また、外の花が眺められるようなベンチも用意されており、居心地よく過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室を「自宅」のほかの「もう一つの部屋」と位置づけ、自分の物を持ち込んでもらうようにしており、ベッド、テーブル、イスなどが持ち込まれている。また、自分の服を収納できる備え付けのクローゼットもある。		